東京帝國大學經濟學會

經濟論叢

第十五卷　第六號

大正十一年十二月一日發行

論叢

相續稅に於ける特殊累進に就きて　法學博士　神戸正雄
勞農露國の農業　法學博士　河田嗣郎
マルクス氏の集產主義の實行難を論ず　法學博士　田島錦治
基督教文明の發展概論　法學博士　財部靜治
經濟道と經濟術　法學士　作田莊一

資料

中央市場論并に食料品配給費研究　法學博士　戸田海市

說苑

リストと歷史派經濟學　法學士　山口正太郎
我國の都市及地方に於ける婚姻の統計的觀察　經濟學士　岡崎文規

雜錄

無責任なる飜譯の一例　法學博士　河上肇
原田學士譯ボーリュー經濟學原論價格指數に就て　經濟學士　小川福太郎
法學士　汐見三郎

附錄

本誌第十五卷總目錄

マルクス氏の集産主義の實行難を論ず（二・完）

田島錦治

一、緒論、マルクス主義及び集産主義の説明、マルクス主義の學理的並に實行的方面の弱點
二、純正集産主義者の其主義實行の設計に就ての沈默、ロードベルツス、ワイトリング、シエフレー・ジョーレ氏等の集産制社會の設計　（既載）
三、純正集産制の設計の大要の説明
四、集産主義の價値論の集産制社會に於ける適用、此適用に關する種々の衝突及び困難の説明
五、集産主義は財貨の生産進歩の趨勢に逆行すること　（本號掲載）
六、集産主義は財貨の需給の調節に背戻すること
七、結論

五

集産主義の設計の大要及び、其價値論の集産制社會に於ける適用の困難の諸點は既に前數節に亘りて之を述べたり。今や本節以下に於て、此主義が現代に於ける財貨の生産の進歩に逆行し財貨の需給の調節に背戻するものなるを論ぜむと欲す。

集産主義に從へば、土地及び資本即ち總ての生産方便を社會の公有となし、總ての生産事業を社會の公營と爲し、從て從來資本主階級の擅占攫取したる個人的利潤は彼等復之を占取するを得

ざるが故に、集産制度の下に於ては、勞働者たる社會公衆が分配を受くべき生産物の量は倍加すべし。加之從來多數の私企業者の自由競爭又は私的獨占は止みて、生産事業が社會の手に統一せらるゝが故に從來二重三重に費やされたる生産費廣告費等は省略せられ、社會の寄生虫たる資本主級階は驅逐せられ、社會公衆は其勞働の功程に從ひ、全報酬を受くるを得て、生産は增加し分配は公平となる。

此考は一見正義に合するが如しと雖も、學理上拔くべからざる誤謬を含み、且實行上避け難き支障を有するものなり。マルクス派が財貨の價値の根源を勞働に置き、資本主と企業者とを混同し、企業の任務及び利子利潤の正當性を解せざる等は、余が本誌に曾て掲載せる諸論文幷に拙著「勞賃と利潤」に於て反覆論評せるが故に今復賞せず、唯茲には財貨の生産に關してマルクス主義集産制度の不利なる點を述ぶべし。

現時の産業組織の下に於て企業家は營利を眼目として各種の生産を經營す、而して生産の進歩發達を惹起し完成する最重要なる原動力は各種の發明發見なりとす。蓋し發明發見を爲す人の中には崇高なる理想、又は非物質的利益を目的とし、又は名譽心に驅られて之を爲すものもある可しと雖も、其多數は之に依りて物質的利益を得んとするなり。之に依りて人を利し特に己を利せんとするなり。無資力なる發明者を補助して其發明を完成せしめ、之を實際の生産に應用する資

本主兼企業者の如きは特に然りとす。然るに集産主義の社會に於ては、發明者は營利を目的と爲すを得ず。或は社會公吏の評價に由りて其發明の功績を彰表せられ、報償せらるゝことは有り得べきも、現時の如き特許制度に由る所の利益を獲得するを得ず。然らば集産制の下に於ては發明發見が著るしく減退すべきは蓋し免がるべからざるの數なりとす。

現時の産業組織の下に於ては各企業者は互に競爭して新式の生産方法を採用し又は新發明の機械を使用し、之に由りて成べく多くの利益を收めんと勉め、結局一般に生産費を輕減し、生産品を低廉にし、社會の利福を增進す。然れども集産制の下に在る勞働者は勞働時間に應じて勞働の報酬を受くるものなるが故に、生産方法又は機械の新舊は彼等の直接なる利害に關係なし。故に彼等は寧ろ使用に慣れたる舊式機械を手離すことを躊躇すべし。勞働者を統轄する任務を有する社會公吏は固より平等主義多數意志尊重主義を採るべく餘儀なくさるゝ者なるが故に、多くの場合に平凡なる多數意志に苟合して、新なる改革は成るべく手控ふなる可し。是に由て之を觀れば集産制の下に於て、生産事業が此主義者の豫想に反して、萎靡頽廢すべきは明かなりとす。夫れ財貨の生産額にして減退せむか、勞働者の受くべき平均分配額も亦減少すべきが故に、集産制の實行は啻に資本主階級を倒すに止まらずして、同じく勞働者階級を貧困ならしむべきなり。

六

集産主義に從へば、勞働の結果たる生産物の價値の總計は勞働者が生産に際して受取る所の勞働手形の額面價値の總計に均しきが故に、一見理論上に於て生産物の供給と其需要とは恰も能く其平衡を保ちて過不及なきを得べきが如しと雖も、實行上に於ては多大の困難不都合を生ずべし。第一、集産制の社會に於て生産すべき財貨の種類分量幷に性質を決定する者は其社會の公吏ならざるべからず。彼等は細密なる調査及び統計を根據として、生産年度の初に於て、其年度内に生産すべき各種の財貨の數量品質を決定し、各種職業者をして之が生産を分擔せしめ、從て生産すれば、從て彼等に勞働手形を交付し、生産物は之を社會の公共倉庫に格納貯藏す。而して斯く貯藏せられたる財貨の中には破損消耗又は腐敗するものなからず。裝飾品嗜好物の如きは流行後れとなるもの亦尠からざるべし。果して然らば社會主義の價値理論上縱令此等の財貨は之が生産に要したる勞働時間に相當する價値を有すとするも、之が需要は減退し、勞働手形所持者は此等の財貨を手形の額面價値相當の價値を以て其手形と引換ゆるを欲せざる可し。此場合に若し價格を引下げて滯貨の一掃を企てんか、集産制の價値理論の根據は崩れて、現代實際社會の需要供給の自然的調節に依賴する社會情態に復歸することゝなるべきなり。

集産制の社會に於て、其社會公吏が調査及び統計の力に賴りて、其社會の將來に需要すべき各種の財貨の數量及び品質を豫め決定するは亦甚だ困難なりとす。現實の社會に於て私人的企業者は各々營利の目的を以て各種の財貨の生産に從事し、而して生産物の種類數量品質を決定する唯一の指針は市場の價格なり。或物の價格上らむか、彼等は之を以て需要の供給に比して增加せるを證すと思考して其生産額を增加す、之に反して價格下らむか、之を以て供給の需要に比して減退せる證となして其生産を手控ゆべし、斯の如くにして社會の各財貨に對する需要と供給とは自然的に調節せられて過不及なきを得るなり。內國各地間に於ける商品の移動並に外國との輸出入の如きも亦同樣なる自然的調節の徑路を行くものなり。社會主義者等は市場價格を指針と爲す私人企業の營利的生産を目して無政府的生産となし、頗る得意の色あり、且此無政府的生産が絕えず生産過剩及び恐慌を惹起すと思考す。然れども生産過剩及び恐慌は社會主義者の誇張過大視する所なり。實際に於ては一部分の企業者の生産計畫の過大は他部分の企業者の細心なる注意に由りて相殺せられ、恐慌の如きも之を豫防し、又は事後に救濟すること敢て爲し難きに非ず。之に反して集産制の社會に於て、若し其中央行政府の公吏が生産すべき財貨の種類、分量、並に品質の選定を誤らむか、到底恢復し得べからざる困難に遭逢すべきなり。現實の社會に於ては、或財貨の生産過剩は其價格の低落となり、內國に於ける需要の增加又は外國に向ての輸出の增加に

由りて結局自然的調節を恢復するを得れども、集産制の社會に於て、若し其中央行政府の公吏が生産すべき或財貨の分量の決定を誤まりて、生産せられたる財貨が一部分社會倉庫に滯積して、出ることなき場合に於ては如何ん。又之と反對に生産せられたる財貨が過少にして需要に應ずるに足らざる場合に於ては如何ん。此二者何れの場合に於ても之を解決すべき唯一の方法は價格を更定して供給過大と認むる物は其價格を安くし、需要過大と認むる物は其價格を高くするに在り、然れども斯くすれば、集産主義の根柢を全く覆すことゝなるべきなり。何となれば此主義に於ては、勞働の價値並に財貨の價値の單位を、財貨の生産に要する平均一時間の勞働を以て測定すればなり。

今假りに一歩を讓りて、集産社會の公吏が國民の需要すべき或財貨の分量の計算を誤まらずと爲すも、或財貨特に農産物の如きは天候等の影響に由りて豫定せる分量よりは著るしく少なき收穫を得る場合尠からず。斯の如き場合に於て、集産社會の人民が其勞働手形を持參して、社會倉庫に集まり先を爭ふて、農産物を受取らむとせば、公吏は如何に處置すべきや。

現實の社會に於ては、內國の商業も外國の貿易も皆市場價格を指針として行はるるが故に、穀物の如き需要彈力性の小なる物は、重に供給の伸縮に依りて其價格の平準を保ち、需給の調節を來すべし。卽ち凶年には外國穀物の輸入を來して、自から價格の暴騰を抑へ、豐年には內國穀物

の輸出を促して、自から價格の暴落を控ふるを得、斯くして一般消費者は飢餓を免かれ、生産者も亦損失を免かる。之に反して、集産社會に於ては、外國より輸入し及び内國より輸出すべき財貨の種類分量及び品質等は（内國にて生産すべき財貨のそれ等と同じく）總て社會公吏の調査及び統計を基礎とする判斷に依りて決定す、而して此判斷が到底正鵠を得る能はざるは前に縷述したる内國生産物の種類分量及び品質の決定に就ての場合と異ならざるべし。果して然らば、社會公吏の判斷に依れる財貨特に生活必需品の輸出入は國民の生産並に消費の調節に向つて善良なる効果を奏する能はざるは蓋し想像に難からざるなり。

夫れ現時の各國は一方に於ては自然的並に經濟的生産條件を異にし、他方に於ては國民の需要する所の財貨の種類甚だ多きが故に、到底自給自足の孤立經濟に依るを得ず、相互に通商貿易を爲すの要あるは、論を俟たず。而して外國貿易の目的物たるや、生活必要品、一般的消費品、奢侈品流行品等多種多樣に亘ると雖も、現實の社會に於ては、各國の私企業者が營利の念に驅られ、市場價格を指針と爲し、互に相競爭して生産し貿易することに由りて、輸出入の平衡は行はれ需給の自然的調節は保たるゝなり。然るに若し此等の諸國の中に於て或一國が集産制を實行したりと假定せんに、其國は假令其國内に於ては勞働の價値並に其生産物の價値を決定するに平均勞働時間を以てするを得、貨幣の流通を廢止して、之に代ふるに勞働手形を以てするを得たりと

するも、此國が外國と貿易を爲すに方りては、外國品を購入するには金貨幣又は金地金を以てするか、又は其國の生産品を以て輸入品の代償に充てざるべからず。而して後の場合に於ては輸出品の價値は決して之が生産に要したる平均勞働時間を以て算定するを得ずして、外國に於けると同じく金の價値を以て算定するを要すべし。果して然らば集産制の國の價値標準は他の諸國のそれと枘鑿相容れざるものとなり、若し貿易を行はざれば則ち止む、苟くも之を行はんと欲すれば集産制の國は二重の價値標準を定めざる可からざることゝなるべきなり。

今此集産制の國が其一年間に或分量の生活必要品(例へば米)を某外國よりの輸入に仰ぐの必要ありと假定せよ。而して某外國は之が代償として集産制の國の生産する所の奢侈品(例へば絹織物)を需要しつゝありと假定せよ。此場合に若し某外國が凶作又は其他の原因事情よりして、或年に於て米の輸出を抑へ、從つて絹織物の輸入を制限したりとせば如何ん。集産國に於ける輸出絹織物の生産者は其既に受取りたる勞働手形を以て、社會倉庫に就て米を求めたる時は如何ん。社會倉庫は絹を持て餘し、社會民衆は米の不足に苦しみ、勞働手形は恰も不拂手形の如くなり了るべきなり。集産國の行政府の公吏が如何に聰明なりとも、外國人民の內國品に對する需要を調査し、之が統計を作りて、之に據りて生産の分量及び品質を豫め確定する能はざるは、火を賭るよりも明かなり。之に反して現實の社會に於ては外國貿易の目的物の多數の生産者並に商人等は

必ずしも深遠なる知識を有し又は精密なる探究を爲すに非ず、只營利の念に驅られ、市場價格の指針に從ひて、內國品の價格上れば、外國品を輸入し、外國品の價格上れば內國品を輸出する所の至て　單なる方法を行ふことに由りて需給の自然的調節を爲し遂げつゝあるなり。

七

以上縷說したる所を總括すれば、集產制の行政府の公吏の調査及び統計を基礎として、豫め其社會民衆の需要すべき財貨の種類數量品質を決定するは困難にして、蓋し殆ど不可能に屬すべし。又假令之を決定し得たりとするも、過不及なく之を生產せしむることは亦殆んど不可能に屬すべし。又之を生產し得たりとするも、貨物の種類に由りては貯藏に耐えず、又は貯藏に由りて變質損耗するものあり、且需要者の嗜好流行等は絕えず變動すべきが故に、社會倉庫に於ける財貨の供給は之が需要と適合する能はざることゝなるべし。夫れ斯の如く啻に內國生產物の需給が常に調節を缺くの弊あるのみならず、集產制の國に於ける外國貿易は同樣の理由によりて、絕えず平衡調節を缺くの危險に遭遇すべし。一言以て之を蔽へば集產制の國に於ける財貨の生產及び消費は到底齟齬杆格を免がれざるなり、而して集產制が實行上斯の如き不結果を來す所の根原は他なし、集產主義が學理上大なる誤謬を有するなり。大なる誤謬とは何ぞや、曰くマルクス氏の勞

働價値說是なり、其餘剩價値論是なり。嗚呼本源既に濁る、何ぞ末流の獨り淸きを望まむや。マルクス主義の學理上の誤謬は余が曩に本誌に掲げたる諸論文に於て、屢々之を指摘論評せり。而して本論文に於ては聊かマルクス氏の集産主義の實行難を指摘論評す。唯憾む時歲末に迫り、公暇多からず。說き得て未だ盡さざる所多し、更に他日を俟ちて補說するを期す、讀者諒せよ。(完結)